

The background features the official logo of Saga University, which is a circular emblem containing a stylized bird with its wings spread. The text "SAGA UNIVERSITY" is written in a semi-circle at the top of the emblem. Overlaid on the left side of the logo is the text "平成29年度 佐賀大学大学院 工学系研究科博士前期課程 機械システム工学専攻" in blue. In the center, the word "オリエンテーション" is written in a large, bold blue font. At the bottom right, the text "機械システム工学専攻 教務委員" and "只野裕一・大島史洋" is written in black.

平成29年度  
佐賀大学大学院  
工学系研究科博士前期課程  
機械システム工学専攻

# オリエンテーション

機械システム工学専攻 教務委員

只野裕一・大島史洋

# 学生証の発行について

- 学生証は以下の要領で配布されます

日時: 4月6日(木) 9:30~15:30

場所: 教養教育1号館 1階 111番講義室

この時間に受領できない場合には、翌日以降に学生センターで受領してください

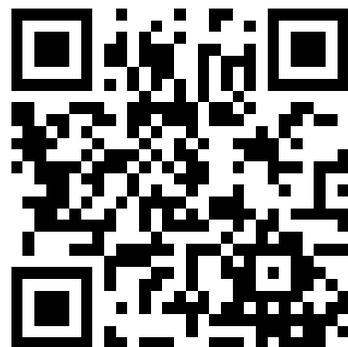
- 各種証明書(在学証明書等)の発行には、学生証が必要です
- 情報基盤センターのユーザーIDは新しいIDに変更になります。旧ユーザーIDは4月末で無効となるので注意(詳細は配付資料を参考のこと)

# 履修案内について

- 本年度より「履修案内」が全て電子化されました  
(冊子版の配布はありません)
- 以下のURLから, 大学院・工学系研究科のH29年度版を各自ダウンロードしてください

<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/risyuu-tebiki.html>

- もしくは以下のQRコードからもダウンロードできます



# 履修案内の関連ページ

- 研究指導, 修了要件, 履修方法など
  - pp. 1~2
- 機械システム工学専攻の詳細
  - pp. 23~27
- 大学院学則及び関係諸規則
  - pp. 57~100
- 各種手続きについて
  - p. 105

# 工学系研究科の教育理念・研究指導方法

[履修案内 p.1]

## ● 教育の理念

- 博士前期(修士)課程では**研究・開発**を遂行できる能力の養成を目的とした教育を行う。

## ● 研究指導の方法

- 学生ごとに1名の指導教員及び1名以上の副指導教員を選任する。
- 学生は、**1年次**から研究指導を受ける。
- 学生は、毎学期、ラーニングポートフォリオシステムにおいて、研究指導実施報告書による指導教員からの研究指導を受けた上、自身の研究活動について振り返りを行う必要がある。

# 機械システム工学専攻の教育目標

[webページ参照]

機械システム工学専攻は、機械工学及びその関連の領域において、高度な専門的知識・能力を持つ職業人を養成することを目的とする。

当専攻では、このような人材育成を目指して、具体的な教育目標を次のように定める。

1. 専門科目を通して、機械および機械関連分野の専門技術および原理に関する高度な知識と、それらを応用し発展させるための**研究能力**、**創造力**を身につける。
2. 研究科共通科目を通して、**専門分野以外の多面的な知識を養う**。
3. **研究活動**を通して、機械および機械関連分野における研究遂行能力および創造力を身につける。
4. **研究活動**を通して、プレゼンテーションをはじめとする国際的なコミュニケーション能力を身につける。

# 修了要件と学位

- (佐賀大学大学院学則第18条): [履修案内 p.1, p.62]

## 第18条 修士課程及び博士前期課程の修了要件

- 当該課程に2年以上在学し, 30単位以上を修得する
  - 必要な研究指導を受けた上, 当該修士課程及び博士前期課程の目的に応じ, 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする.  
ただし, 在学期間に関しては, 優れた業績を上げたものについては, 当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする.
- 学位の種類: 修士(工学), 修士(学術), 修士(理学)

# 授業科目と履修方法

大学院工学研究科履修細則第2条第4項 [履修案内 p. 80]

博士前期課程の各専攻の学生は、それぞれ別表1-1～1-8に掲げる専門科目から**26単位**以上、研究科**間**共通科目から**4単位以上**、**計30単位**以上を修得しなければならない。

別表1-5 機械システム工学専攻の授業科目 [履修案内 p. 86]

- 基礎教育科目：**4単位 必修**
- 専門教育科目：**22単位以上 選択必修**
- 研究科**間**共通科目：**4単位 選択必修**

# 基礎教育科目(必修科目)について

- 機械システム工学専攻の学生
  - 基礎教育科目4単位が必修指定
    - 熱流体力学特論(前学期, 木曜日, 3校時)
    - 機械設計特論(前学期, 月曜日, 2校時)

# 履修手続き

- 授業科目を履修し、単位を取得するためには次の手続きを経なければならない。
- 前学期の履修登録：1年次の前学期は、4月6日(木)～4月14日(金)の期間内にLiveCampusから履修登録を行うこと。この期間内であれば、登録科目の追加・修正も可能。
- 履修手続きの詳細は、配付資料を参照のこと

## 登録変更申請書(文書)による修正

➡ 4月17日(月)～28日(金)は、紙媒体での修正が可能  
申請用紙は教務課にある。

# 研究科間共通科目の履修について

- 研究科間共通科目の履修希望科目については前期, 後期にそれぞれ希望調査を行う
- 前学期の履修希望調査  
希望調査票の提出期限: 4月4日(火)  
本オリエンテーション終了後に回収
- シラバスは各自web上で確認すること
- 4月6日(木)に抽選結果を掲示予定(学生センター掲示板)
- 1年前期に抽選に外れた場合⇒1年後期に履修
- 2年時には, 抽選がなく, 優先的に当該科目を履修可能

# 研究科間共通科目の履修について

下記の項目に該当する学生

⇒後学期の研究科間共通科目の履修に際し特例処置を受けることが可能

## <対象学生>

- 1年前学期 抽選に外れた場合  
(研究科間共通科目を前学期に履修できなかった学生)
- 1年前学期に研究科間共通科目の**集中講義**  
(数値計算工学特論・情報セキュリティ特論)を配当されたが、  
**学会もしくはインターンシップ**により**集中講義の履修を削除**した学生

## <特例処置>

- **後学期に1科目を優先配当する。**
- **2科目を受講することも可能**  
⇒2科目目は前学期に配当を受けた学生を含め**平等に抽選を実施**

# 他専攻の開講科目の単位履修

履修細則第4条[履修案内 p. 81]

研究科規則第5条の規定により修得した授業科目の単位は、**博士前期課程**にあつては**10単位**を、各課程修了の要件となる単位に含めることができる。

ただし、**他研究科、他専攻の開講科目の受講**には、  
教務課に「**履修願**」の提出が必要 →**4/14(金)まで**

**➡ 指導教員・教務委員の押印が必要**

参考：研究科規則第5条第2項[履修案内 p. 77]

## 成績評価に対する異議申立 [履修案内 p. 2]

- 成績評価基準は、オンラインシラバスに記載されている。
- 科目の成績評価に用いられた情報は、**ライブキャンパスでの成績通知後、1ヶ月以内**に担当教員に申し出れば閲覧できる。
- 成績評価に質問、異議がある場合には、**ライブキャンパスでの成績通知後、1ヶ月以内**に担当教員に申し出ることができる。
- 成績評価の疑義が解消されない場合、研究科長に異議申立ができる。

# 教員免許状(専修)の取得について

- 学部卒業生で一種免許状(工業)を有するものが、大学院前期課程において教科に関する科目24単位以上を修得し、修了することにより専修免許状を取得できる[履修案内 p. 2].

教科に関する科目は、[履修案内 pp. 101-104]を参照

- 「科目等履修生」制度

大学院の学生が教員免許状(一種)のため、学部授業を履修する場合は、「科目等履修生」として受講することになります。この制度で受講する場合、検定料、入学料及び授業料は必要ありません[履修案内 p. 2].

# 内規

- 機械システム工学専攻の学生は，在学期間中に，学会等で修士論文の内容に関する研究発表を1回以上行うことを努力目標とする。
- 在学中に，少なくとも一つの学会に所属する。
- 日本機械学会への入会申し込みは，機械学会連絡委員まで

# 研究指導計画 [履修案内 p. 26]

指導教員は、以下の項目についての研究指導を行う。

- 研究課題のテーマの設定および研究計画の立案に対して適切な指導を行う。
- 修士論文作成に必要な専門知識や技術を修得するため、研究指導を行う。
- 研究室のゼミおよび中間発表、試問会などにおける研究発表を通して、プレゼンテーション技術を修得するための指導を行う。
- 学会、研究集会などへの参加機会を積極的に提供し、**最低1回の学会発表を努力目標として課す。**
- **2年生には全員、9月に開かれる中間発表会に修士論文の中間発表および聴講を行うことを課し、参加者は最低1回の質問を発表者に対して行うことを義務づける。**
- 1・2年生の研究活動によって修士論文作成を指導し、2年生の2月に論文を提出させる。
- 論文提出後開かれる修論試問会において、主指導教員と副審査教員により審査を行う。

# 修士論文の評価基準 [履修案内 p. 26]

修士論文と試問会での発表に対して、以下に示す評価項目に基づき総合的に評価する。

## ● 修士論文の評価項目

- 研究の意義や目的を理解して明確に記述されているか
- 結果に至るまでの過程，方法および結果の評価について，合理的かつ明確に記述されているか
- 論文の構成が適切で，読みやすく記述されているか

## ● 試問会発表の評価項目

- 発表態度が適切であるか
- 研究の目的を正しく理解しているか
- 結果に至るまでの過程を理解していたか
- 限られた時間内に内容を伝えることができたか
- 結果を分かりやすく表示できたか
- 質問に応答できたか